



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002.1月号



東北三木馬：左から木下駒（宮城県）、八幡馬（青森県）、三春駒（福島県）

新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

昨年は博物館へ多大なご支援をいただき、まことにありがとうございました。開催した特別展を振り返ってみますと、春の「思いでの風景 思いでの人びと—山本登写真展—」は平塚の原風景を懐かしむ方が多く訪れ、夏には考古学ファンで賑わった「相武国の古墳」、秋には宿駅制度400年を記念し大磯町郷土資料館と共催した「二宮・大磯・平塚を結ぶ道—東海道—」と、いずれも好評のうちに終えることができました。

当館は市民に開かれた博物館を目指し、様々な普及行事に取り組んでいます。行事に参加したのがきっかけで足繁く博物館に通うようになり、資料整理などの作業を手伝ってくださる方もいらっしゃいます。こうした市民の熱意があって、特別展その他の事業が盛り上がっていくのは、当館にとってたいへん喜ばしく、また誇りに感じることです。今年2月1日から開催する第3回博物館まつりは、各サークルの日頃の活動成果が展示されます。博物館の年間会員制の行事に参加してみたい方は、ぜひご来場ください。

さて、平塚市は今年で市制70周年を迎えます。70周年記念の特別展として、夏は平塚市の出土品を50点に厳選して紹介する「平塚市考古資料展」（仮称）、秋は金目地区を中心に展開された自由民権運動とそれに伴う教育文化活動を探る「明治の教育・文化村—金目—」（仮称）を開催する予定です。また、3月には「神奈川の植物展」を開催しますのでご期待ください。より多くの方に、より深く博物館を活用していただくために、館員一同、力を合わせて努力してまいりますので、本年もどうぞご支援とご協力をお願い申し上げます。

平塚市博物館 館長 尾崎 晃

2002年の天文現象

2001年はしし座流星群の流星雨という歴史的な天文現象が日本で見られました。さて、2002年はどんな天文現象が見られるでしょう。プラネタリウムでは、以下の現象の見え方をわかりやすく再現して紹介しています。

◆ 1月・3月土星食

土星食とは、土星で食べる食事..ではなく、月が土星を隠してしまう現象です。今年、平塚では1月25日の2時ごろと、3月20日19時55分前後の二度、土星食が見られます。

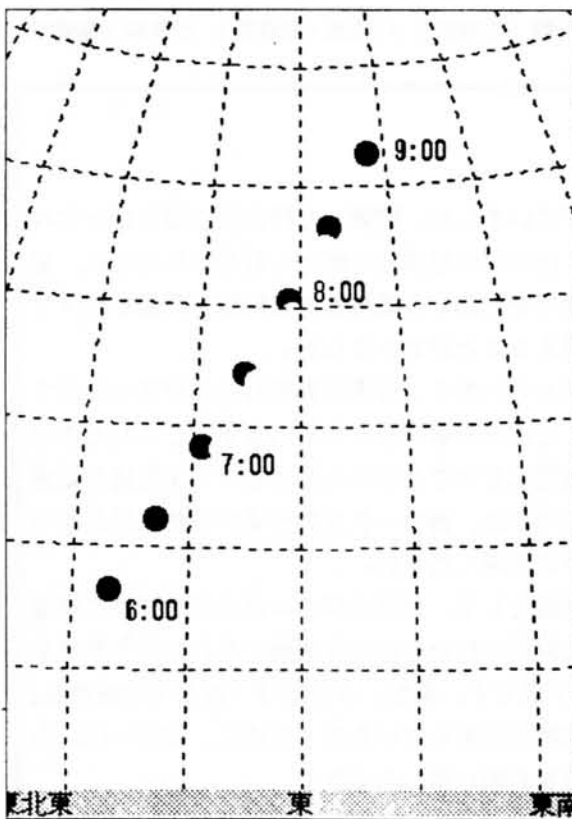
二度の土星食は、食になる地域と、ならない地域があります。両方見られる平塚はかなりラッキーですが、3月の食の方は、土星の一部がはみ出たまま終わりそうです。1月の食は西の空低いところでの現象でやや見づらいのですが、3月の現象は高く、好条件といえます。博物館では3月20日に「星を見る会」を実施する予定です。

◆ よいの明星・五惑星集合 (図1)

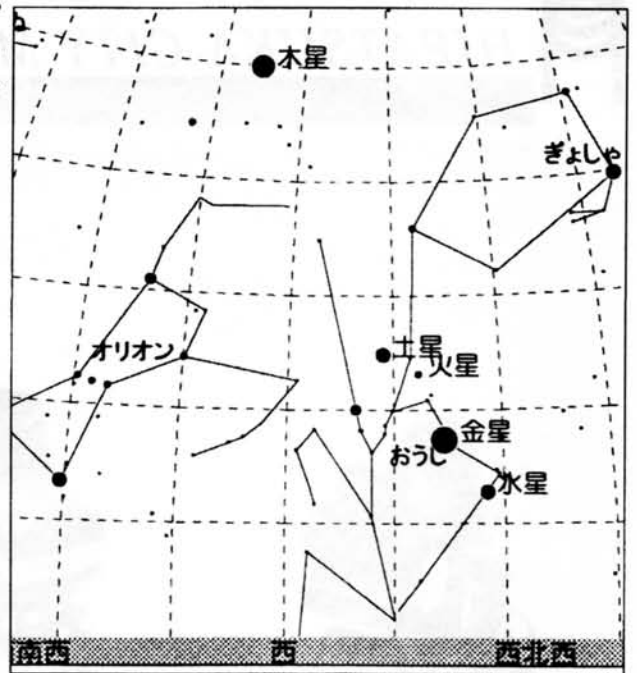
3月には金星が夕方、西の地平線に見つかるようになるでしょう。以後、4月、5月と高度を上げて来ます。4月末には水星、火星、土星、木星などがみな夕方の西の空に集まり、5月中ごろにはここに細い月も割って入るので、楽しい眺めになりそうです。

◆ 6月11日部分日食 (図2)

地球は太陽をまわり、月は地球のまわりを回っています。月が太陽と重なり、太陽を隠すのが日食です。6月11日朝、平塚では部分日食があります。7時前から太陽は欠け始め、8時45分ごろまで食は続きます。最大は7時40分ごろで、太陽の直径の半分くらいまで欠けて見えます。太陽はまぶしく、直接見ると目を痛めることがあるので注意が必要です。



<図2：6月11日の部分日食－平塚での欠け方>



<図1：4月29日午後7時ごろの西の空>

火星はここアアルデバラン（土星の左下のおうし座の星）よりも暗く、見つけにくくなっています
(StellaNavigator Ver.5 アスキー/アストロアーツによる)

◆ 12月4日アフリカ・オーストラリア皆既日食

天文現象の華は皆既日食でしょう。ただし見られる範囲は狭いので、日本国内ではなかなか見られません。今年はアフリカ～オーストラリアの一部で皆既日食が見られます。サウスオーストラリア州のセドゥーナという町では、夕方18時40分（現地時間・サマータイム）に食が始まり、皆既になるのはもう日没（20:29）も近い19時40分です。皆既継続時間は30秒余りと短く、高度も低いので、あまり好条件とは言えません。

◆ 流星群

8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群は、流星が増える夜半前後に月が沈むので、よい星空の条件で眺められます。市内でも時間あたり20個くらいの流れ星の出現が期待できます。しし座流星群はアメリカでの大出現が予想されていますが、満月近い月明かりが少々邪魔になります。

プラネタリウム「2002年の天文現象」

(2月3日まで)

投影日：土、日曜日 11:00、14:00

** 第3回 博物館まつり **

平成14年2月1日(金)～2月10日(日)

平塚市博物館 特別展示室：入場無料

博物館で活動するさまざまなサークルが一堂に会して展示や発表を行う「博物館まつり」を開催します。今年で3回目になり、展示の方もいちだんとグレードアップの様相です。各会とも展示企画を練る段階に入り、今はもう、めっちゃ張り切ってます。どうぞ、日ごろの熱心な活動の成果をごらんにおいでください。また、会への参加に興味をお持ちの方も、この機会に活動内容を要チェックです！！

*ところで！

今年はなんと、「まつり」のポスターも各会有志の手作りでご案内しています。何種類もありますので、街角で見かけたポスターが、どの会の人を作ったものか、当ててみませんか（すぐわかってしまうポスターが多い）？

●参加サークル（12団体）

- 漂着物を拾う会
- 古代遺跡を探す会
- 裏打ちの会
- 天体観察会
- 民俗探訪会
- 相模川の生い立ちを探る会・平塚地質調査会
- ろばたばなしの会
- 神奈川キノコの会
- 石仏を調べる会
- 平塚の空襲と戦災を記録する会
- 展示解説ボランティアの会

●実演

- 縄文土器焼き実演（古代遺跡を探す会） 2月3日（日）見学自由
- 裏打ち作業実演（裏打ちの会）—古文書等を和紙で補強する作業です 2月9日（土）見学自由
- 展示解説ツアー（展示解説ボランティアの会）日程未定
- ろばたばなし（ろばたばなしの会）—1階展示室古民家のいりり端で民話の語りを聞いてみませんか。この日は、平塚に伝わる徳川家康の話の特集します。2月10日（日）13:30・15:00 参加自由

●博物館まつり発表会

日時：2月9日（土）13時より

場所：博物館講堂（入場無料）

- 漂着物を拾う会
- 相模川の生い立ちを探る会・平塚地質調査会
- 天体観察会
- 平塚の戦災と空襲を記録する会
- 神奈川キノコの会
- 民俗探訪会
- 石仏を調べる会
- 古代遺跡を探す会

（発表のタイトル等は来月号でお知らせの予定です）



昨年の民俗探訪会の展示



発表会の様子

博物館カレンダー

<平成14年1月>

5	土	天体観察会「スターウォッチング調査」	屋上
6	日	☆寄贈品コーナー「天文部門」(~1月30日)	展示室
10	木	石仏を調べる会	特研究室
11	金	古文書講読会	講堂
12	土	民俗探訪会	講堂
		◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		◎星を見る会「惑星と星雲星団」	屋上
		天体観察会「スターウォッチング調査」	屋上
13	日	地質調査会	科学室
16	水	民俗探訪分科会「社寺調査」	大神
		裏打ちの会	科学室
		宇宙を学ぶ会	プラネ室
17	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
18	金	古文書講読会	講堂
19	土	地質調査会	野外
20	日	◎ろばたばなし	展示室
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
24	木	石仏を調べる会	特研究室
25	金	古文書講読会	講堂
26	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
27	日	古代遺跡を探す会「分布調査」	土沢

☆: 展示(無料) プラネタリウム(観覧料)

○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 会員制

<展示とプラネタリウム>

☆寄贈品コーナー「しし座流星群大出現！」

昨秋、流星雨という歴史的な大出現を見せたしし座流星群をとらえた写真を展示します。あわせて、今年見られるさまざまな天文現象も紹介します。

会期: 1月6日(日)~1月30日(水)

☆プラネタリウム「2002年の天文現象」

日食は? 流星群は? 宵の明星は? 2002年の年間星空予報をします。

期間: 2月3日(日)まで

投影日: 土日曜日の11時と14時

<参加者募集>

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日時: 1月12日(土) 9時30分~11時

場所: 平塚虹ヶ浜海岸

参加: 自由(初めてのの方は往復はがきで申し込む)

◎星を見る会「惑星と星雲集団」

土星の環や木星のしま模様、オリオン大星雲などを観察します。

日時: 1月12日(土) 19時~20時30分

場所: 科学教室・屋上

参加: 自由

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時: 1月20日(日) (1)13時30分~ (2)15時~

場所: 展示室民家 参加: 自由

<平成14年2月>

1	金	☆博物館まつり(~2月10日)	特展室
		☆寄贈品コーナー「雛人形展」(~2月27日)	展示室
		古文書講読会	講堂
2	土	◎星を見る会「土星木星星雲星団」	屋上
		天体観察会「惑星・星雲・星団」	屋上
3	日	民俗探訪会「阿夫利神社節分祭」	伊勢原市
		◎古代遺跡を探す会「縄文土器の野焼き体験」	博物館
6	水	民俗探訪分科会「社寺調査」	大神
		宇宙を学ぶ会	プラネ室
7	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
8	金	古文書講読会	講堂
9	土	◎博物館まつり発表会	講堂
		◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆プラネタリウム「星の虹くスペクトル」(~4月7日)	プラネ室
10	日	◎ろばたばなし「平塚の徳川家康伝説」	展示室
14	木	石仏を調べる会	特研究室
15	金	古文書講読会	講堂
16	土	地質調査会	科学室
		天体観察会「カノーパス」	野外
17	日	◎ろばたばなし	展示室
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
20	水	民俗探訪分科会「社寺調査」	特研究室
		裏打ちの会	科学室
		宇宙を学ぶ会	プラネ室
21	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
22	金	古文書講読会	講堂
23	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		○自然観察会「冬の鳥の観察」	酒匂川
24	日	古代遺跡を探す会「分布調査のまとめ」	科学室
		相模川の生い立ちを探る会「湯本平の湧石」	山北町
28	木	石仏を調べる会	特研究室



今年は午年です。馬は十二支で最も人と関わりが深く、大切な動物であったかもしれません。平塚市でも戦前までは馬を飼う農家があり、米俵や薪を運ばせたり、馬小屋の敷き藁を堆肥にしたりして役立ててきました。馬が家族同様に大切に扱われていたことは、市内に150基ほど造立されている馬頭観音の石仏からもうかがえます。馬頭観音は亡くなった飼い馬の供養塔として立てられ、中には愛馬の名を刻んだ石塔もあります。馬頭観音は、観音像の頭上に馬の頭が載る独特の姿をしています。仏教では、馬が草をはむように煩惱を食い尽くしてくれる仏という意味がありましたが、日本では、その姿から馬の守護仏として広く信仰されるようになりました。馬は、険しい山道を、炭俵などの重い荷物を背負って運ぶことも厭わなかったため、とくに山村で重宝され、県内では足柄上郡などに馬頭観音がたくさん残されています。平塚市でも丘陵地帯の土沢地区に多く分布しています。

(写真は、山北町山北の文政4年(1821)馬頭観音)

あなたと博物館 26巻 10号 通算302号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>